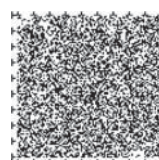


くるめ生きものプラン

せい ぶつ た よう せい ち いき せん りやく
～久留米市生物多様性地域戦略～



久留米市



市長あいさつ

平成29年3月

久留米市長 檜原 利則



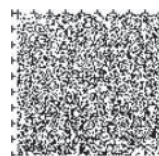
私たちのふるさと久留米市は、東西に約32km、南北に約16kmと長い扇形状を示し、九州一の大河である筑後川の清らかな水と、緑豊かな耳納連山の自然の恵みを受けています。

先人達は、それらの多様な自然とうまく共生しながら、生命を育み、文化を築き、豊かな生活をおくってきました。しかし、近年の急速な経済的発展は、私たちの暮らしを便利にしてくれましたが、その一方で、開発などによる自然破壊や地球温暖化などにより、身近に見られたドジョウやメダカなど、多くの生きものの絶滅が危惧されています。

久留米市の豊かな自然を守り、次の世代に引き継いでいくことは、今を生きる私たちの責務であり、その責務を果たすためには、全ての市民が生物多様性の重要性を理解し、行動できるようになる必要があります。その指針として、この「くるめ生きものプラン」が、皆さまの第一歩となれば幸いです。

なお、策定に当たっては、次代を担う小学校高学年にも理解できるように、久留米市のイメージキャラクターである「くるっぱ」を、水と緑の久留米市の象徴とし、説明や進行に活用し、難しい表現を減らし、図や写真を使用しながら久留米市の現況と課題を学び、行動を始めるきっかけとしてもらえるよう心がけました。

目指すくるめの姿「自然とふれあい、自然と生きるまち くるめ」の実現に向け、市民、事業者、市民団体など全ての皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



自然とふれあい、自然と生きるまち くるめ

久留米の魅力をもっと知ってほしいか～

筑後川

耳納山地

久留米市には、
山や川など自然が
いっぱいだよ!!

くるっぱ

目次

久留米市のイメージキャラクターのくるっぱだよ。久留米市内を流れる九州一
大きな川・筑後川生まれのカッパだよ。生まれ育ったこの豊かな久留米の自然を、
これからも守っていくために何をしていけば良いのか。一緒に勉強していこう!!



第1章 生きものが危ない……………1

1. はじめに
2. 生きものがいなくなっているよ…
3. 日本では3,597種がピンチ!!
4. 原因のほとんどが人間の暮らし!!
5. 生きものがいなくなると、どうなるのかな?
6. どうしたら生きものを守れるかな?
7. 3つのレベルの多様性

第2章 久留米市の現況と課題……………7

1. 久留米市ってどんなところ?
2. 筑後川のめぐみ
3. 耳納山地のめぐみ
4. 農業のめぐみ
5. 優れた生態系を有する地域
6. 久留米市の課題と要因

第3章 目指すくるめの姿……………15

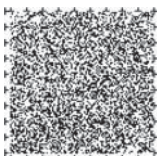
1. 生きものプランが目指すくるめの姿
2. 自然とふれあい、自然と生きるまち くるめ とは
3. 私たちがすぐにでも始めるべき行動
4. 地域連携保全活動

第4章 施策の方向性……………18

1. 3つの目標
2. 18の施策
3. 行動施策(主な個別事業)
4. 重点指標
5. くるめ生きものプランの体系図

第5章 生きものプランの推進……………24

1. それぞれの役割
2. 生きものプランの進行管理
3. 生きものプランの推進体制



1

生きものが危ない



1. はじめに

生きものがいなくなっている現状を一緒に見ていこう。

私たちの暮らしは、自然からいろいろなめぐみを受けることで成り立っています。今、その自然が失われようとしています。

自然が失われてしまうと、簡単にはもとに戻ることはありません。いなくなってしまう生きものが、帰ってくることもありません。

そうなる前に、みんなで考え、今できることから始めてみましょう。

※くるめ生きものプランは、久留米市全部を対象にしています。



生きものを守っていくためには、生きものをよく知る必要があるよ。みんなで、勉強してみよう。

2. 生きものがいなくなっているよ…

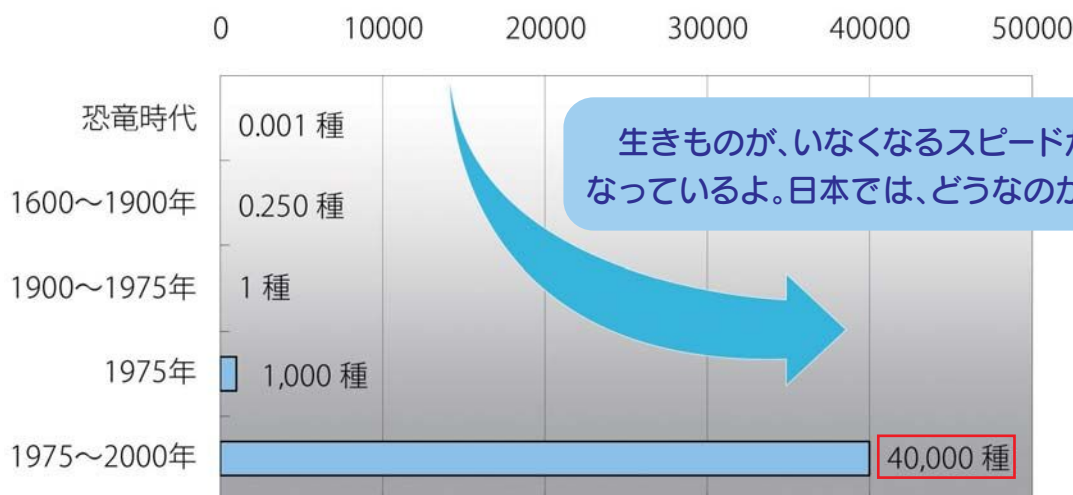
クジラのような大きな生きものから、目には見えないくらい小さな生きものまで、地球には約3,000万種類の生きものが暮らしています。

しかし、今、たくさんの生きものが、いなくなっています。

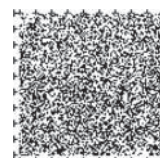
その数は、世界中で**1年間に40,000種**

これは、恐竜がいなくなった時代の数よりたいへん多い数です。

1年間にいなくなっている生きものの数



生きものが、いなくなるスピードが早くなっているよ。日本では、どうなのかな？



出典：平成22年度版 生物多様性白書（環境省）

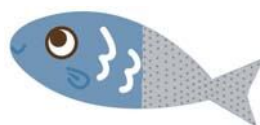
3. 日本では3,597種がピンチ!!

今、日本では分かっているだけでも3,597種がいなくなるかもしれないのです。
生きものの種類ごとに見てみると…

下の生きものを良く見てね。
少しずつ、いなくなっているのわかるかな。



ほ乳類
(クマやウサギの仲間)
のうち
約**21%**



魚類の仲間のうち
※汽水・淡水魚に限る
約**42%**



は虫類
(カメやヘビの仲間)
のうち
約**37%**



植物の仲間のうち
※維管束植物に限る
約**25%**



両生類
(カエルの仲間)
のうち
約**33%**



貝類の仲間
のうち
約**18%**



鳥類の仲間
のうち
約**14%**

どうして、いなくなっ
ているのかな?



身近な生きものに、もう会えなくなる。そんな未来が、すぐそこまできているのかもしれない。

トキ (野生絶滅)

約30年前に日本の野生の
トキは絶滅してしまいま
した。現在は、施設で育てたト
キを自然にもどす取組が続
けられています。



ニホンウナギ (絶滅危惧種)

日本でよく食べられるニホン
ウナギという種類のウナギは、
国内でとれる量が減り、生息数
も少なくなってきているため、
日本では平成25年に絶滅危惧
種に指定されました。



出典: 環境省「こども環境白書2016」より

4. 原因のほとんどが人間の暮らし!!

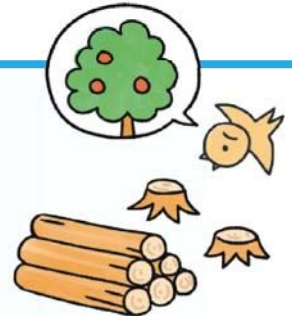
私たちの暮らしは、昔から比べると大変便利になっています。しかし、その便利な暮らしによって、生きものたちがピンチになっています。今、生きものは「4つの危機（ピンチ）」にさらされており、原因のほとんどは、私たち人間の暮らしです。

これにより、たくさんの生きものが、いなくなっています。

第1の危機（ピンチ）

私たち人間が、道路や工場、住宅などをつくるために、木を切ったり水辺を埋めたりすることで、生きものすみかをうばってしまいます。

また、生きものを多く取ることにより、生きものがいなくなっています。



第2の危機（ピンチ）

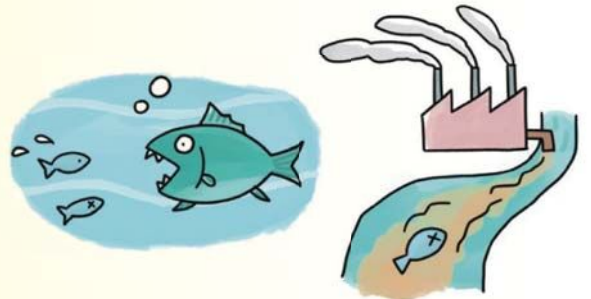
人間が、手を加えなくなった里地里山は荒れてしまい、イノシシやシカなどが増えすぎて、そこにいる生きものすみかをうばっています。



第3の危機（ピンチ）

人の手によって、他の地域などから持ち込まれた生きものを外来種といいます。

外来種の中には、その地域にもともといた生きもの（在来種）を食べたり、すみかをうばっている生きものもいます。また、自然に存在しない化学物質などによって、土や空気、川などが汚され、生きものがいなくなっています。



第4の危機（ピンチ）

私たちの暮らしから出る二酸化炭素などの働きで地球の温度が上昇することを地球温暖化といいます。

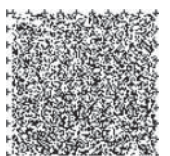
この温暖化が進むと生きものに悪い影響を与える可能性があります。



出典：環境省「こども環境白書2016」より

暮らしが便利になった一方で、生きものがいなくなっているんだ。

このままだと、どうなっちゃうのかな？



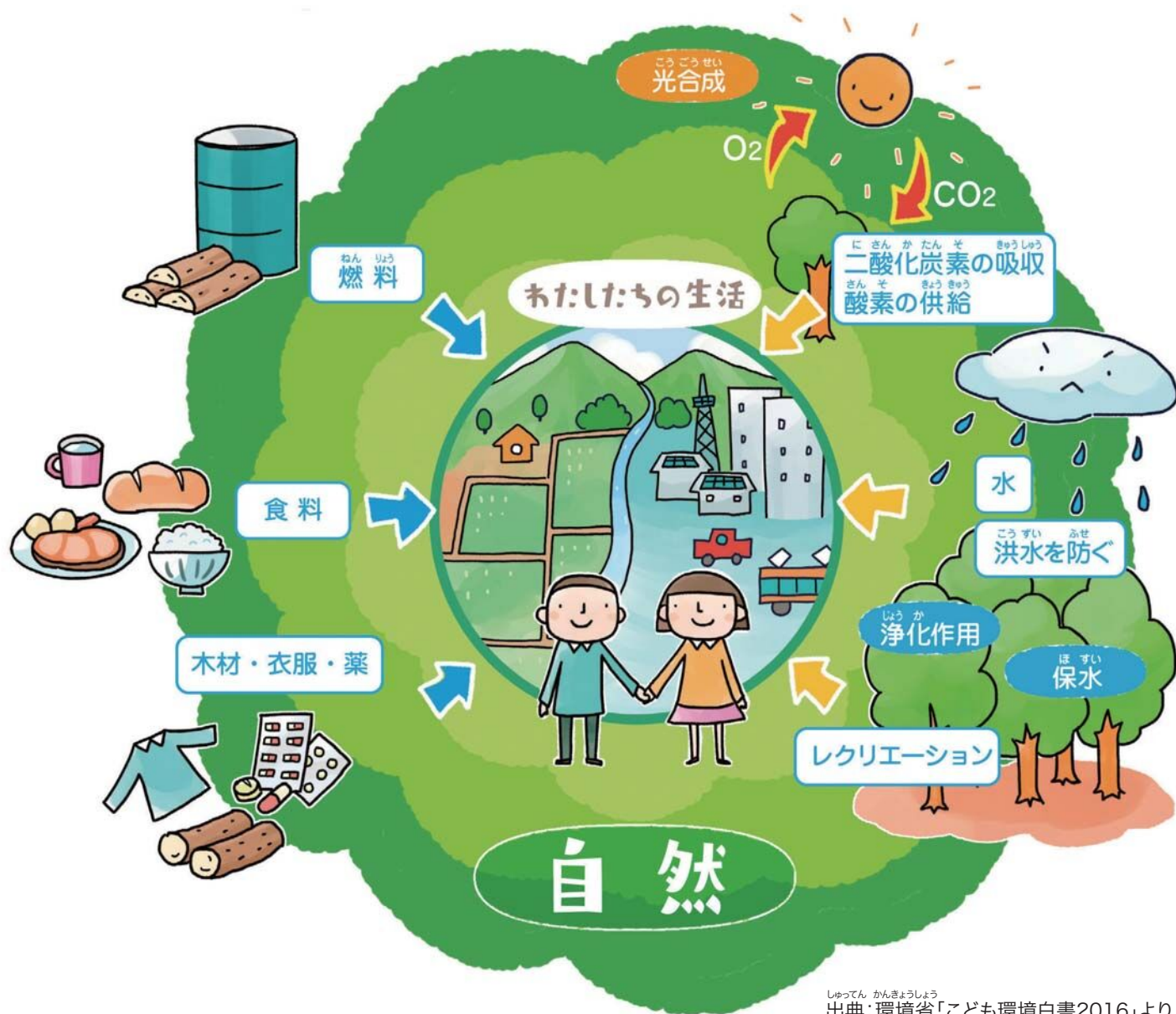
5. 生きものがいなくなると、どうなるのかな？

自然は、いろいろな生きものがいることによって成り立っています。例えば、木は、私たちが生きていくうえで大切な空気や水をうみだします。

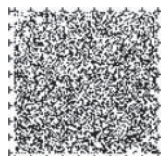
また、食べ物、衣服、燃料など、生活のほとんどのものが、自然からのめぐみです。

さらに、自然は、レクリエーションの場所や心の安らぎを与えてくれたり、洪水を防いだり、災害から私たちの暮らしを守ってくれます。

わたしたちの生活を支える自然のめぐみ



出典：環境省「こども環境白書2016」より



生きものが少なくなると、自然のバランスが崩れて自然からのめぐみがなくなってしまうかもしれないよ。

久留米名物のラーメンだって、もとは動物や小麦などの生きもののめぐみでできているので食べられなくなるよ。

6. どうしたら生きものを守れるかな？

生きものを守っていくためには、その生きものがいなくなった理由を知る必要があります。
生きものがいなくなってしまった理由とは…



それぞれ違います。

クワガタにはクワガタの理由がありますし

カメにはカメの理由があります。

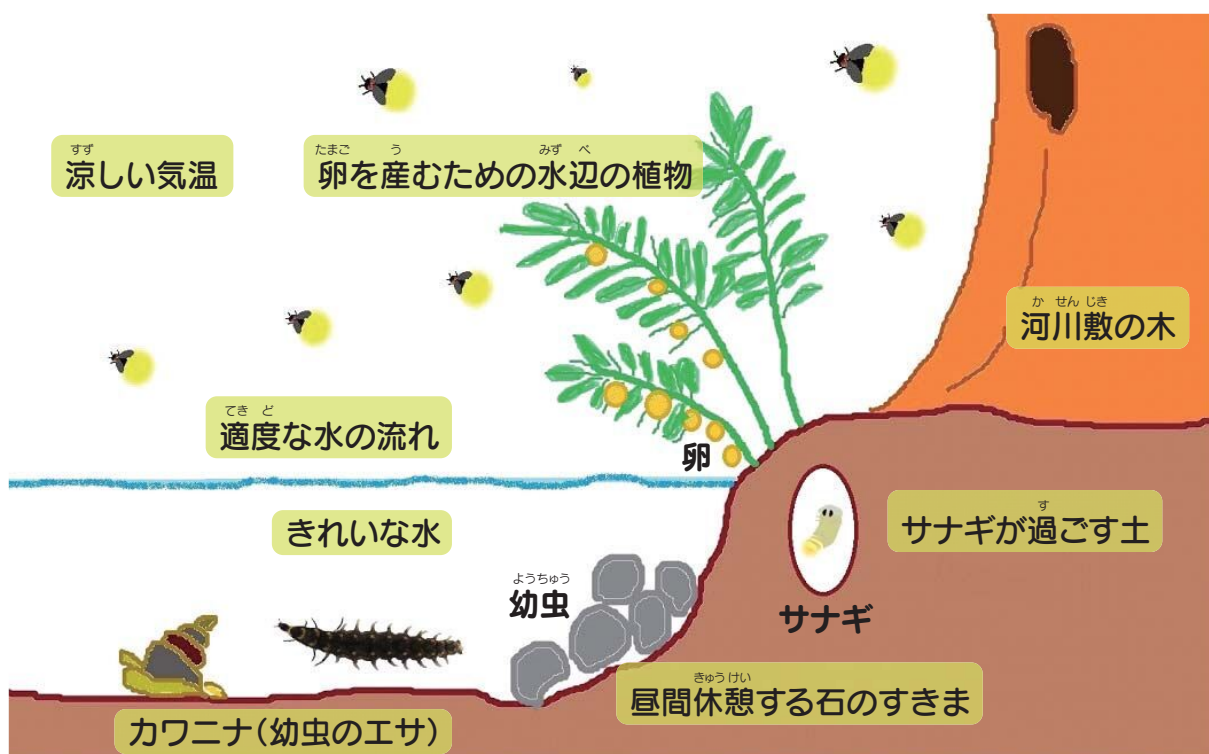
ホタルにだって理由があるかもね。

ホタルの場合はどうだろう。
一緒に考えてみよう。



ホタルが生きていくために必要な環境

太陽の光が差し込めるくらいの林



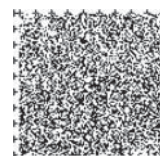
ホタルだけでなく、全ての生きものは周りの自然に支えられて生きています。この環境が1つでもなくなってしまうと、生きものはいなくなるかもしれません。
生きものを守っていくためには、この自然界のつながりを深く知る必要があります。

いろいろな生きものがいること、そして、それらの生きものが、「食べる－食べられる」の関係をはじめ、複雑に関わりあい、いろいろな環境に合わせて生活している事を、

難しい言葉で **生物多様性** といいます。



生物多様性ってかんたんに言うと、いろいろな生きもの
のつながりのことだね。



7. 3つのレベルの多様性

生物多様性には、「生態系・種・遺伝子」という3つのレベルの多様性があります。

生物多様性が豊かであるには、3つのレベルの多様性が豊かである必要があります。

①生態系の多様性

森林には森林の生きものがいて、川には川の生きものがすんでいるように、生きものには、それぞれのすむ場所があります。草原や水辺（クreek）、海や沼地といった、生態系の種類が豊富であれば、種の多様性や遺伝子の多様性が豊かになります。



森林



水辺(クreek)



草原

森林は、たくさんの生きものを育てているけど、これだけでは駄目なんだ。
トンボやカエルのように、子供の頃は水辺で暮らす生きものがいるからね。
たくさんの生きものが暮らしていくには、森林や水辺、草原や田園、たくさんの種類の生態系が必要だよ。



②種の多様性

川の中には、魚や貝、水草など、いろいろな種類の生きものがすんでいます。魚だけでも、いろいろな種類、いろいろな形の魚がいて、お互いに関わりあいながら生きています。



セボシタビラ



ニッポンバラタナゴ



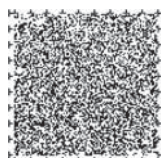
カゼトゲタナゴ



バッタやカエル、アメンボ、鳥や魚など、いろいろな種類の生きものがいることを、種の多様性が豊かであるというよ。

③遺伝子の多様性

人間一人ひとりに個性があるように、他の生きものも、同じ種類でも違う遺伝子を持つことにより個性があります。この個性が新しくなる力になり、環境の変化に対応できる可能性が高まります。



同じナミテントウでも、少しずつ模様が違うよね。
この違いが、病気が流行ったときに、その種がいなくなるのを防いでいると言われてるよ。
次の章では、久留米市のことを紹介するよ。

2

久留米市の現況と課題

第2章では、久留米市の事を紹介していくよ。



1. 久留米市ってどんなところ？

久留米市は、福岡県の南部にあります。

平成17年に、旧久留米市、旧田主丸町、旧北野町、旧城島町、旧三潴町が一緒になって広くなりました。

東から西に筑後川が流れ、南には耳納山地がそびえ、水と緑の豊かな自然を活かした農業が盛んです。

また、産業ではゴム産業が有名で、ブリヂストンは久留米が生んだ世界的企業です。

全国的に有名な豚骨ラーメンが初めて作られた場所で、焼きとり、うどんなど、いろいろなおいしい食べ物があります。

東西距離：32.27km 面積：229.96km²
南北距離：15.99km 人口：304,552人
(H27年国勢調査)



久留米森林つつじ公園から見た筑後川と筑後平野



みんな知ってるかな!?

問題: 名前のなかに“くるめ”が入っている、生きものがあるよ。

① 久留米つ○○

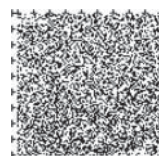


② ニッポンバラタナゴ
(学名の一部: クルメ〇ス)

学名
Rhodeus ocellatus kurumeus



答えは次のページを見てね!



2. 筑後川のめぐみ

筑後川は、長さが143キロメートル、4県18市8郡にまたがる、九州一大きな川です。私たちは、この筑後川の豊かな水のめぐみを受けて暮らしています。



私たちの飲み水

久留米市の水道水は筑後川の水です。放光寺浄水場でにぎりなどをとりのぞき、消毒し、飲める水にしています。



農業用水

豊かな筑後川の水を利用して、多くの種類の農作物を作っています。



とても珍しい水域

有明海は潮の満ち引きの差がとても大きく、最大で6メートルくらいあります。そのうえ、筑後平野はとてもなだらかなため、満ち潮の時に有明海の海の水が川をのぼってきて、川の水を押し上げます。

川の水と海の水が混ざっている所を汽水域といい、この環境でしか生きられない生きものもいます。

久留米市城島町のエツ漁で有名なエツは、有明海にいる海の魚ですが、5～8月に川をさかのぼって汽水域で産卵します。



エツ(絶滅危惧種)

3. 耳納山地のめぐみ

久留米市には、鷹取山、耳納山、高良山、明星山などの山があり、これらをまとめて耳納山地といいます。このまとまった自然は、生きものにとって大切なすみかとなっています。

また、森林は雨水をたくわえたり、二酸化炭素を吸って、生きものに必要な酸素をうみだしたりしています。

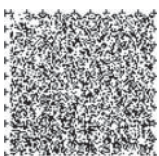
耳納山地のふもとは、水はけが良く、果物をつくるのに向いています。

柿やぶどう、梨などたくさんの果物がつくられていて、フルーツ狩りなども盛んです。



みんな里地里山って知ってる!?

里地里山は、長い歴史の中でさまざまな人間の働きかけを通じてできた自然環境です。田んぼや小川、原っぱ、うら山など、身近な自然として親しまれてきた環境であり、日本の4割を占めているよ。



4. 農業のめぐみ



九州一大きい筑後川と筑後平野にめぐまれた久留米市は、福岡県内最大の農業生産を誇る農業都市です。

●農業と生物多様性の関わり

農業では、長い時間をかけて人が自然に手を加えてきました。その結果、田畑を中心に他とは違う生態系ができ、人と生きものが共生する場となっています。

人は農地を管理し、自然から米や野菜などのめぐみを受け取っています。



農業が盛んで、たくさんのめぐみ(農作物)を受け取っているんだ。他には、どんなめぐみがあるのかな？

●農業・農村の多面的機能

田んぼや畑、農村のまわりの自然は、私たちの生活に欠かせないいろいろなめぐみをもたらしています。このめぐみを、「農業・農村の多面的機能」と呼んでいます。

「農業・農村の多面的機能」の一例



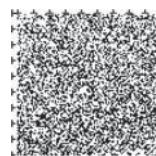
農林水産省ホームページ農業・農村の多面的機能http://www.maff.go.jp/j/nousin/noukan/nougyou_kinou/を加工して作成

●学校給食のはなし

久留米市では、小・中学校の給食に久留米産の農作物を多く使っています。お米は全て久留米産を、野菜や果物の多くは久留米産を使用しています。



給食には、久留米市で取れたものがたくさん使われているんだね。



5. 優れた生態系を有する地域

久留米市では、自然環境調査を実施して、5地区（A～E）の「優れた生態系を有する地域」を選んでいきます。

また、平成27年に環境省より「生物多様性保全上重要な里地里山」として田主丸の竹野地区（F）が選定されています。

久留米市には、いろいろな生きものがすんでいるよ。

街なかや田園、山地、水辺ではどのような生きものが見れるかな。



城島町の浮島地域



タコノアシ



カニやタコノアシなどもいるよ。

田園で探してね



カヤネズミ



カヤネズミの巣



ヤマトシマドジョウ

水路には、ドジョウ、カエル、メダカなども泳いでいるよ。

街なかでも見られるよ



メジロ



シジユウカラ

メジロやシジユウカラも観察できるよ。



広川河口付近



ヤマノカミ

サギなどの鳥が見られ、ヤマノカミ、エツなどの魚もいるよ。

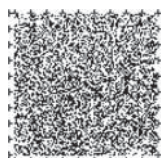


高良山周辺



キンメイモウソウチク

天然記念物のキンメイモウソウチクが見られ、オオタカやハヤブサなどもあるよ。





鎮西湖付近



コムラサキ

コムラサキなどのちょうや、アリアケギバチ、オヤニラミなどの魚もいるよ。

山地で見られるよ



コナラ



フデリンドウ



クヌギ

ニホンザルや、ムササビ、フクロウなど珍しい生きものもいるよ。



筑後川中流域(恵利堰周辺)



イカルチドリ

いろいろな魚がいて、コアジサシやイカルチドリなどの鳥も見られるよ。



優れた生態系を有する地域

旧行政区境界



竹野地区の里地里山



ヒナモロコ

なかなか見られないヒナモロコが、自然に増えるように地域で取り組んでいるよ。

水辺で見られるよ



カンムリカイツブリ



マガモ



ゲンジボタル



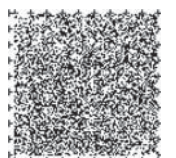
オヤニラミ



アリアケギバチ

アリアケギバチは、有明海^{きん べん}近辺で見られる珍しい魚だよ。

珍しくて数が少ない生きものから、よく見かける生きものまでいるね!!



6. 久留米市の課題と要因

課題 ① 久留米市でも生きものがいなくなっています

久留米市では、約200種近い生きものがいなくなることが心配されています。(福岡県レッドデータブック2011、2014より)
10年前は、近所の田んぼや水路で見つけることができた身近な生きものが、最近ではなかなか見つけることが難しくなっています。

いなくなることが心配されている生きもの



トノサマガエル



オニバス



ミナミメダカ



キキョウ

久留米市では、どのような理由で生きものが減っているのかな？
その他のいなくなる事が心配されている生きものについては資料編を見てね。



要因 生きもののすむ場所がなくなっています

生きものがいなくなった原因の1つに、すむ場所がなくなったことがあります。
特に街なかでは、家や工場をつくることなどにより、生きもののすむ場所になる自然が減っていると
言われています。

生きものが暮らしていくにはどのような自然が必要なのでしょう。

例えばカエルは…

おたまじゃくしの時は水辺ですごし、カエルになると草
はらや林にすみます。また、産卵は浅い水辺で行います。

カエルの移動範囲には、このようないろいろなタイプの
自然のまとまりが必要になります。



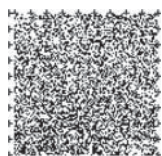
みんなもすむ家がなくなったら暮らしていけないよね。
生きものにはすむ場所が大事なんだ!!

要因 外来種による被害があります

食べるためや、ペットとして飼うために日本に連れてこられた外来種には、逃げたり、野外に放され
たりして数が増え、生態系などに悪い影響を与えるものがあります。

久留米市でもアライグマやブラックバスなどが確認されており、外来種による悪い影響や被害を少
なくしていく必要があります。

久留米市にいたることがわかっている外来種



アライグマ



オオクチバス(ブラックバス)



ミシシippアカミミガメ(ミドリガメ)



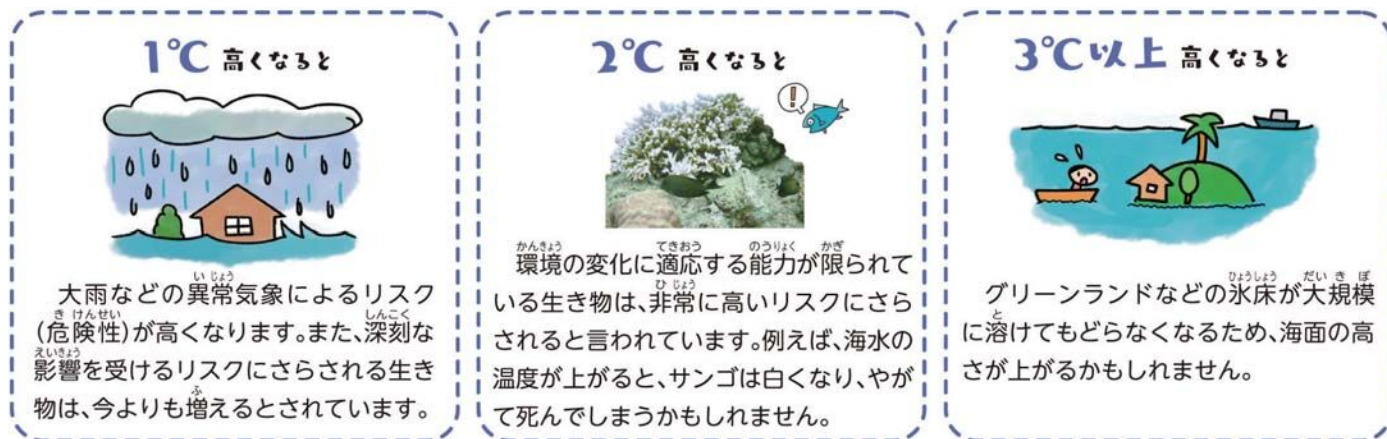
スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)

課題② 生きもののすむ環境が変化しています

植物が決まった季節に芽を出したり、冬眠している動物が春に目を覚ましたりするの、温度の影響を受けているからと言われています。温暖化などにより平均気温が上がり続けると、生きものに影響を与えます。

また、大雨や海面の上昇などにより、生きもののすんでいる場所が変化してしまう可能性があります。

知ってる？ 世界の平均地上気温が上がり続けると(未来予測)



出典：環境省「こども環境白書2016」より

平均気温が1.5～2.5℃上昇すると、生きものの絶滅のリスクが20～30%高くなると言われています。

久留米市では、どのように気温が変化しているかな。



久留米市の平均気温などの推移

	1980～1989年	1990～1999年	2000～2009年	2010～2015年
年平均気温	15.5℃	16.4℃	16.8℃	16.8℃
猛暑日を超えた平均日数	2.0日	6.5日	10日	19.5日

(猛暑日：日最高気温35℃以上のこと)

過去の気象データ(気象庁)

猛暑日を超えた日が、約10倍に増えています。この変化がいろいろなものに影響を与えています。

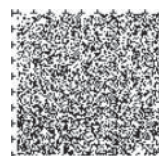
要因 便利な暮らしが、環境に悪い影響を与えています

生きもののすむ環境が変わった原因の1つに、私たちの便利な暮らしが自然の負担になっていることがあげられます。久留米市では、普段の生活のなかなどで、その負担を減らすための取り組みを進めています。

身近な自然や生きものを守るためにも、自然への負担を減らす取り組みが一人でも多くの人に広がっていくことが必要です。



出典：環境省「こども環境白書2015」より



生きものを守っていくために、とても大切な生物多様性について、久留米市ではあまり知られていません。

ちやう さ けつ か
アンケート調査結果

	久留米市の調査	福岡県の調査
生物多様性のことを知っている人の割合	25.1%	43.4%

久留米市：平成27年度市民アンケートモニター調査結果

福岡県：平成27年度県政モニター調査結果

よう いん
要因

生物多様性について学ぶ場が少ない

生きものの数や種類が減っていること、自然を守っていくことの大切さをみんなが知って、普段の行動に反映されるよう、久留米市の自然とのふれあいの場所や、自然のことを考えた取り組みを学ぶ場所などを増やしていくことが必要です。

かんきよう
環境学習



学童保育所でくっぴと一緒に環境について学んでいます

し ぜん かん さつ かい
自然観察会



高良川で生きものを観察しています

みや の じん
宮ノ陣クリーンセンター
環境学習ルーム



生物や自然のめぐみを学べる部屋です

生物多様性のためにできること

つたえ
よう



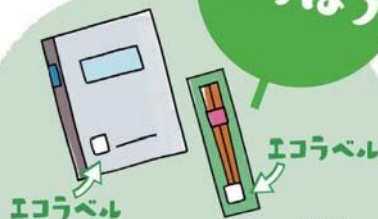
自然のすばらしさや季節の移り変わりを感じて、家族や友達に伝えよう

まもろう



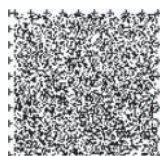
自然や生き物の観察会、保護活動などに参加しよう

えらぼう



エコラベルなどが付いた、環境にやさしい商品を選ぼう

しゅってん かんきようしやう
出典：環境省「こども環境白書2016」より



3

目指すくるめの姿



くるめ生きもののプランの目指す将来はどうなっているのかな。

1. 生きもののプランが目指すくるめの姿

生きものがいなくなって、自然から受けているめぐみがなくなれば、私たちの暮らしは成り立ちません。今、久留米市にある筑後川や耳納山地などの豊かな自然をこれ以上減らさないように、守り育てます。また、生物多様性国家戦略ならびに福岡県生物多様性戦略の長期目標年次と合わせ、2050年までに「自然とふれあい、自然と生きるまち くるめ」を目指します。

2. 自然とふれあい、自然と生きるまち くるめ とは

自然とふれあい、自然と生きるまち くるめはどのような姿をしているでしょう。市内を【街なか】、【田園】、【山林】の3つに分け、望ましい将来の姿をまとめてみました。

将来の街なかの姿

道路には、いろいろな種類の木が植えてあり、公園は人だけでなく、他の生きものにとっても、住みやすい工夫がされているなど、いたるところで生物多様性のことを考えた緑化が行われています。

まとまった緑は、生きもののすみかや休む場所となり、街なかで生きものの観察ができます。

自転車で街なかをめぐったり、サイクリングの環境が整い、多くの人が自転車を利用しています。



将来の田園の姿

みんなが農業への理解を深め、農地や水路などの保全活動に参加するなど、豊かな田園が守られています。

その豊かな田園地帯では、環境のことを考えた農業が行われ、そこで作られたいろいろな農作物により、私たちの食卓はより豊かになっています。

また、多くの生きもののすみかとなり、さまざまな生きものがいます。

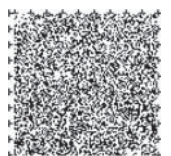


将来の山林の姿

耳納山地などのまとまった森林が、多くの生きものを育て、水源として守られています。

また、生きもののことを考えた林業や森林ボランティア活動により、自然が守られ、クマタカやムササビなどがすんでいます。

豊かな生物多様性を活かした観察会や、イベントが開催され、週末には市外からも多くの人が訪れます。



3. 私たちがすぐにでも始めるべき行動

自然とふれあい、自然と生きるまちくるめを実現させるために、
私たちにできることはたくさんあるよ。
どんなことがあるのかな？



身近な自然や生きものとふれあう

☑ 自然観察や自然体験の機会を増やしましょう。

私たちの生活は、昔に比べ便利で快適なものになりました。
しかし、その一方で、多くの生きものがいなくなっている原因
の1つとなっています。

私たちは、生きものがいなくなっていく状況や自然とのつな
がりを目で見ることはできません。生きもののことを思い、生き
ものがなくなった世界を想像する力を養う必要があります。

そのためには、自然観察や自然体験の機会を増やすなど、日頃
から、身近な自然や生きものと積極的にふれあい、身体で感じる
ことが大切です。



環境美化活動を行う

☑ 地域の清掃活動などに参加しよう。



久留米市では、地域で行われる一斉清掃、企業などによる周辺道路
のごみ拾い、筑後川河川敷で行われるノーポイ運動や環境美化ボラン
ティア制度「くるめクリーンパートナー」の登録者の人たちがごみを拾
うなど、いろいろな環境美化活動が行われています。

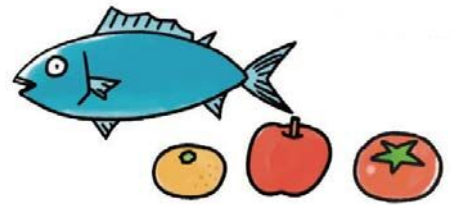
これらの活動は、手の届く身近な環境を守り、自然を育てていくこと
につながります。

環境のことを考えた消費者になる

☑ 地元産の食材を選んで料理しよう。

地元でとれた旬の野菜や果物などを味わうことで、季節の
移り変わりや、自然のめぐみの大切さを感じましょう。このよ
うに地元で取れた食材を地元で食べることを「地産地消」といいます。

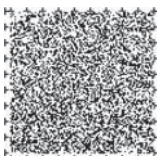
「地産地消」は輸送や保存などに必要なエネルギーが減り、温暖化をやわらげることにもつながります。



☑ ペットは最後まで飼おう。

ペットのなかには、もともと久留米市にすんでいない生きものもいます。
そのような生きものを野外に放すと、もとからいた生きものに悪い影響
を与えてしまう可能性があります。

ペットを飼い始めたら、最後まで面倒をみるのが、飼い主の責任です。



し げん 資源を大切に使う



しゅってん
出典：環境省「こども環境白書2016」より

☑ しょう かん わ さく 省エネ(温暖化緩和策)に取り組もう。

生きものは季節を感じながら生きています。温暖化などにより気温が上がると、自然に影響を与え、生きものがいなくなってしまうといわれています。また、今みんなが使っているエネルギーには限りがあります。

使わない電気は消す、水は出しっぱなしにしないといった取り組みも生きものを守ることに繋がります。

☑ 3Rにチャレンジしよう。

ごみの量(りょう)を減らす(Reduce)・くり返し使う(Reuse)・再び利用する(Recycle)という、資源を大切に使うための行動のことを、初めの文字「R」をとって、「3R」といいます。ごみを減らすことは、自然のめぐみを大切に使うことになり、生きものを守っていくことにつながります。

☑ もったいないをさがそう。

自然から得(え)られるめぐみには限りがあります。
身の回り(むだ)で、無駄になっている資源はありませんか？
食べもの(かんしゃ)に感謝して、ご飯(のこ)を残さない。
無駄なものは使わないといった行動は、自然を大切に
し、生きものを守ることに繋がります。



出典：環境省「こども環境白書2016」より

ち いき れん けい ほ ぜん かつ かつ 4. 地域連携保全活動

各地(かく)で耕(たが)されない農地や管理(かん)されていない山林(りん)が増えていると言われています。人間(ひと)が手(て)を加えなくなった山林では、竹(たけ)や笹(ささ)が増えたり、大きな木(き)が増えたりして、日の光(ひのひかり)が届(とど)かない暗(くろ)い林(りん)になることがあります。

水田(みづ)周辺(へん)では、管理(かん)が行き届(とど)かずに、水辺(みづべ)の環境(かんけい)が変わることがあります。

このような変化(へんか)によって、里地里山(さとちりさん)の生きもの(いきもの)のバランスが崩(くず)れ、もともといた生きもの(いきもの)がいなくなってしまうおそれがあります。



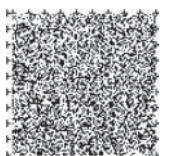
昔(むかし)と比べて、自然(しぜん)と人の関わり(かんわり)が少(すく)なくなっただから、里地里山(さとちりさん)の生物多様性(せいぶつたようせい)が危(あぶ)ないと言われているんだ。

里地里山(さとちりさん)を守る取り組み(とりくみ)として、地域連携保全活動(ちいきれんけいほぜんかつく)が注目を集めています。

地域連携保全活動(ちいきれんけいほぜんかつく)とは、農業団体(でんたい)やNPO、事業者(じやうみん)や地域住民(いっしよ)が一緒(いっしょ)になって山林(さんりん)の管理(かんぎ)を行ったり、ため池(たみけ)や水路(すいろう)の草刈(くさ)りや清掃(せいじよう)活動(かつく)を行うことを指します。



こういう取り組み(とりくみ)が広がると
自然(しぜん)とふれあい、自然(しぜん)と生きるまち(まち) くるめに近(き)づくよ。
みんなもできることから始めてみよう!!



4

施策の方向性



これから、目標と施策の説明をするよ。少し難しくなるかな、大人の人と一緒に学んでみよう。

1. 3つの目標

「目指すくるめ」の実現に向け、3つの目標をかかげ、今後、久留米市が目指す施策の方向性を示します。

～生きものの生息環境が守られたまちづくり～

久留米市の豊かな自然を守り、生かし、つなげ、多種多様な野生の生きものも暮らせるまちづくりを進めます。

～自然と暮らしがつながる仕組みづくり～

日々の暮らしのなかで、生物多様性を守り・育てる仕組みづくりを進めます。

また、自然のめぐみを経済につなげ、地域の活性化に生かします。

～自然を守り、暮らしにつなげる人の育成～

生物多様性の大切さを理解し、久留米市の自然を守り・育み、次世代につなげる人づくりを進めます。

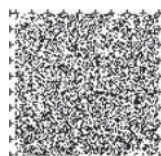
2. 18の施策

「目指すくるめ」を実現するための具体的な取り組みとして、平成32年度を短期目標と定め、3つの目標に基づく18の施策を推進していきます。

生物多様性の危機は、今すぐに行動しなければならない地球環境問題です。

そのため、できることから実践し、多様な施策を進めていく土台をつくります。

これにより、今後進めていく施策をより効率的に行います。



目 標	施策名	
生きものの 生息環境が 守られたまちづくり	希少生物の保全	
	市街地での生態系の保全	
	自然とのふれあいの場の創出	
	山林の保全、再生	
	生きものの移動などに配慮した施策の推進	
	外来種への対応	
	有害鳥獣への対応	
	田園などの里地里山の保全・再生	
目 標	施策名	
自然と暮らしが つながる 仕組みづくり	産 業	生物多様性に配慮した農業・農村の振興
		生物多様性に配慮した事業活動の促進
	暮 ら し	生物多様性に配慮した暮らしの促進
		生物多様性に配慮した消費行動の促進
		温暖化緩和策の促進
		循環型社会構築に向けた取り組み
目 標	施策名	
自然を守り、 暮らしにつなげる 人の育成	環境学習の機会や情報の提供	
	自然とのふれあいや環境保全活動を行う人材の育成	
	自然観察会の実施	
	市民団体の活動支援	



目標1. 生きものの生息環境が守られたまちづくり

●希少生物の保全

- ・自然環境調査を実施し、希少な野生生物の実態把握・保全に努めます。
- ・自然環境調査の結果などを踏まえ、指標種を設定し、市内における希少生物の生息状況や経年変化の把握に努めます。

自然環境の保全と共生事業

●市街地での生態系の保全

- ・緑豊かな都市景観やまちなみづくりのため、市民や事業者による緑化活動への支援を行います。
- ・中心市街地において、市民や事業者との協働による緑化の取り組みを推進します。

中心市街地拠点緑化事業
市民とつくる花と緑のまちづくり事業
生け垣設置奨励制度

花とみどりの景観整備事業

○自然とのふれあいの場の創出

- ・都市河川や街路樹、都市公園などを活用した、調和が取れた魅力ある都市空間を創出します。
- ・みどりの里・耳納風景街道エリアにおいて、地域資源を活用した地域主体の体験交流イベント支援を行います。

都市基幹公園整備事業
都市景観形成促進事業
住区基幹公園整備事業

みどりの里地域活性化事業

○山林の保全、再生

- ・二酸化炭素の吸収機能や水源かん養機能を持つ森林を保全するため、造林、保育に努めます。

森林総合整備事業(荒廃森林再生事業)

○生きものの移動などに配慮した施策の推進

- ・生息環境の確保のために、魚道の整備や、植生の復元などを行い、周辺に生息している生きものに配慮した工事を推進します。

○外来種への対応

- ・生態系に影響を及ぼすおそれのある外来種の危険性の周知・啓発を進めます。
- ・久留米市アライグマ防除実施計画に基づく計画的な防除などの外来種対策を実施します。

自然環境の保全と共生事業

○有害鳥獣への対応

- ・有害な野生鳥獣の分布・活動範囲などを調査し、捕獲などを行い、農作物などへの被害の軽減を図ります。

有害鳥獣広域防除対策事業

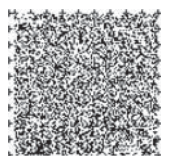
○田園などの里地里山の保全、再生

- ・中山間地域の持続的な農業活動を可能にするため、地域ぐるみで行う農地の保全活動を支援します。
- ・豊かな里地里山を保全するため、地域連携保全活動への取り組みを推進します。

中山間地域等直接支払事業

自然環境の保全と共生事業

●:重点施策 ○:その他の施策





目標2. 自然と暮らしがつながる仕組みづくり

●生物多様性に配慮した農業・農村の振興

- ・農地の水源かん養機能などの多面的機能を確保するため、地域ぐるみで行う保全活動などを支援します。
- ・化学肥料や農薬の使用量低減を促進し、環境負荷が小さい農業の普及を図ります。

多面的機能支払交付金事業

環境保全型農業の推進

●生物多様性に配慮した暮らしの促進

- ・生物多様性に配慮した行動リストを作成し、様々な啓発の場で普及に努めます。
- ・公共下水道、農業集落排水、浄化槽などの整備を促進し水質の保全に努めます。
- ・環境に配慮した自転車の利用促進を図るため、コミュニティサイクル事業やイベント開催などに取り組みます。

自然環境の保全と共生事業

生活排水処理施設整備事業

自転車利用促進事業

○生物多様性に配慮した事業活動の促進

- ・事業者は環境配慮活動を行い、市は支援や助成に関する情報などを提供し、協働して環境保全に取り組むための仕組みである、「環境共生都市づくり協定」の締結を推進します。
- ・市民や事業者との協働による美化の取り組みである「くるめクリーンパートナー制度」の充実を図り、清潔で快適なまちづくりに向けた啓発を行います。

環境負荷低減促進事業
環境共生都市づくり協定

環境美化促進事業
(くるめクリーンパートナー)

○生物多様性に配慮した消費行動の促進

- ・「くるめエコ・パートナー制度」を活用して、市民、事業者、市が協働した省エネ・省資源、エネルギー利用効率化のための取り組みを推進します。

環境負荷低減促進事業
(エコ活動推進事業)

○温暖化緩和策の促進

- ・従来のものに比べ、エネルギー効率が非常に高い、家庭用燃料電池「エネファーム」の設置を促進します。
- ・エネルギー使用量を減らして二酸化炭素の排出を抑えることで、地球温暖化の緩和につながる取り組みを支援します。
- ・LEDなどの省エネ・高寿命タイプの防犯灯の設置・切替えにより節電と安全・安心な地域づくりを支援します。

新エネルギー政策推進事業

緑のカーテン推進事業

防犯灯設置推進事業

○循環型社会構築に向けた取り組み

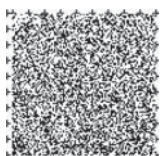
- ・家庭から出る生ごみや剪定枝、落ち葉などの自家処理を促進するために、講習会や学習会などを通じて、発生源でのごみ減量を図ります。
 - ・広報紙を定期的に発行するとともに、地域において3R学習会を開催し、ごみ排出者である市民・事業者の意識啓発を図ります。
 - ・生ごみリサイクルを、知識と技術を持つアドバイザーにより保育園や学校、地域などに広めます。

ごみ減量・分別リサイクル事業

ごみ問題啓発広報事業

生ごみリサイクルアドバイザー派遣事業

●：重点施策 ○：その他の施策





目標3. 自然を守り、暮らしにつなげる人の育成

●環境学習の機会や情報の提供

- ・環境交流プラザを活用して、自然環境の保全や共生、生物多様性の啓発を行います。
- ・「環境フェア」などの環境に関するイベントや、市民、事業者を対象とする環境に関する講座を実施し、生物多様性の啓発を行います。
- ・生物多様性についての冊子を作成し、学校教育や学童を通じて児童・生徒に対し啓発を行います。
- ・学校教育現場における環境教育の促進のため、学校版環境ISOの活動支援を行います。

環境まなびのまちづくり事業
自然環境の保全と共生事業
ごみ問題啓発広報事業

環境負荷低減行動推進事業

●自然とのふれあいや環境保全活動を行う人材の育成

- ・生物多様性アドバイザー制度の活用を推進します。
- ・NPOや市民団体を対象として、生物多様性の講座を実施し、人材の育成を図ります。
- ・家庭から排出される生ごみの堆肥化を促進するため、地域などで生ごみリサイクルに関する知識の講習などを実施し、育成を進めます。

環境まなびのまちづくり事業

環境まなびのまちづくり事業

○自然観察会の実施

- ・久留米の山や川、ビオトープで季節に応じた自然観察会を実施します。身近な自然にふれることで、生物多様性に関する意識向上を図ります。
- ・市民参加による環境調査や自然観察会など、自然とのふれあいを促進します。

環境まなびのまちづくり事業

四季の森ふれあい教室事業

○市民団体の活動支援

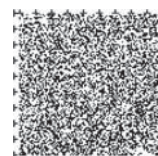
- ・市民、NPO、市民団体、行政などの多様な主体が交流し、情報を共有できる場を設けます。
- ・NPO、市民団体などが実施する生物多様性に関する様々な情報を発信します。

自然環境の保全と共生事業

●：重点施策 ○：その他の施策



ちょっと難しかったかな。
久留米市では、ここにあげた施策以外にもいろいろな事業をおこなっているよ!!



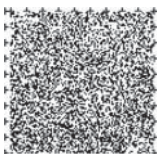
4. 重点指標

3つの目標の達成にあたり、施策の進捗状況を確認するために、8つの重点指標を設定します。

目 標	指 標	年 度			
		H29～H31	H32	H33～	H62 (2050年)
守られたまちづくり 生きものの生息環境が	指標種の設定	H32年度までに設定	くるめ生きものプランの評価・見直し 久留米市環境基本計画策定	見直し後のくるめ生きものプランの推進	自然とふれあい、自然と生きるまち くるめの実現
	緑の量 (公園・市民の森・保存樹木などの合計面積) 現状320ha (H22年度)	H32年度までに346ha			
	花や緑、水辺などの魅力が高まったと感じる市民の割合 現状78% (H27年度) ※市政アンケートモニター(くるモニ)調査結果	H31年度までに85%			
つながる仕組みづくり 自然と暮らしが	農用地面積に占める、多面的機能の維持に 取り組む地域活動面積の割合 現状69% (H27年度) ※多面的機能支払交付金実績	H31年度までに75%			
	日常で環境に配慮した取り組みをしている市民の割合 現状76% (H27年度) ※市民意識調査結果	H31年度までに80%			
暮らしにつなげる人の育成 自然を守り、	生物多様性の認知度 現状25% (H27年度) ※市政アンケートモニター(くるモニ)調査結果	H32年度までに45%			
	宮ノ陣クリーンセンター 環境交流プラザ利用人数 年間30,000人以上 (H28年4月オープン)	年間利用人数継続			
	自然や生きものを守るための活動や 行動をしている人の割合 現状49% (H27年度) ※市政アンケートモニター(くるモニ)調査結果	H32年度までに60%			

●見直し計画

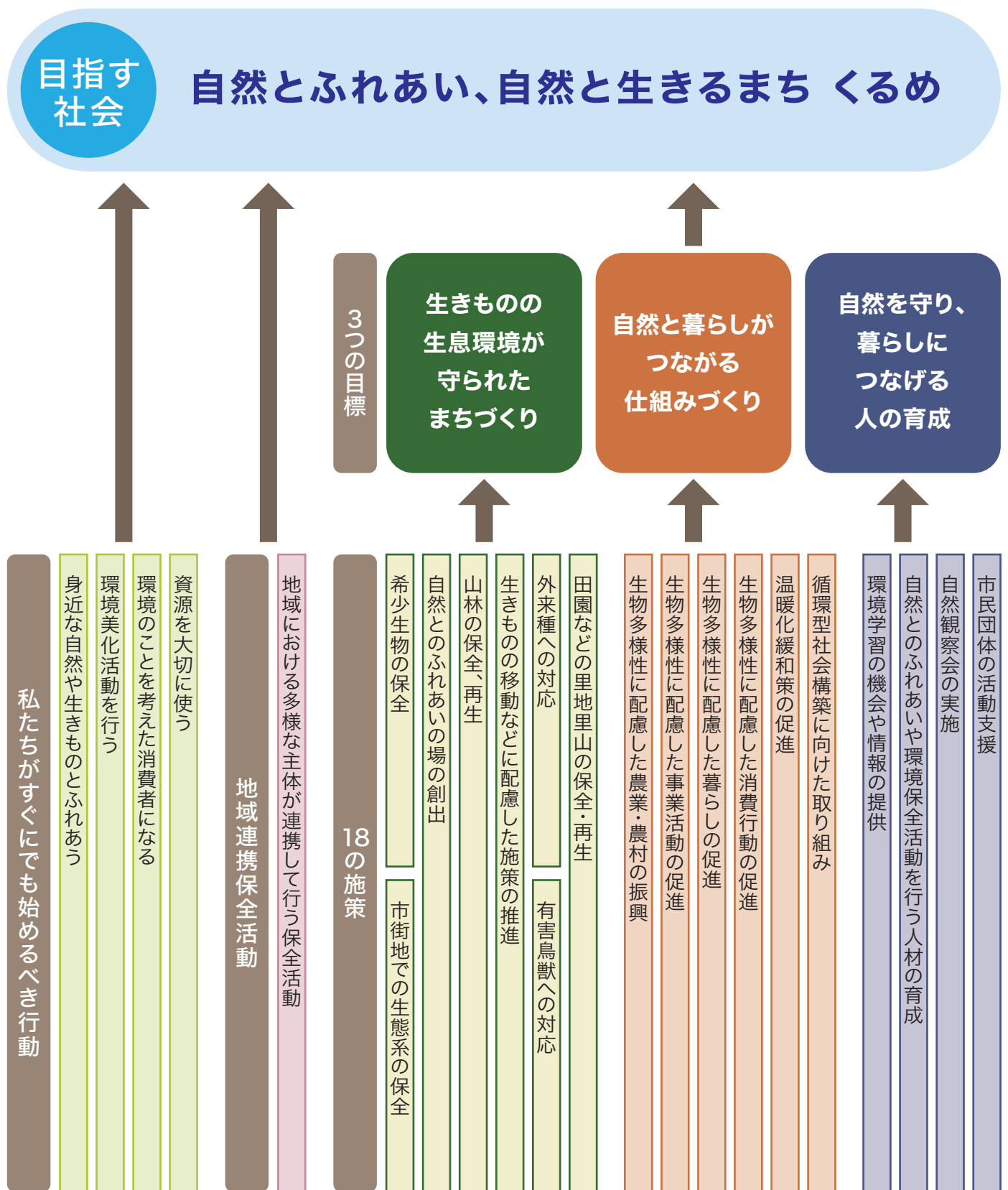
短期目標を平成32年度として、18の施策や重点指標にもとづき、平成32年度にプランの見直しを行い、平成33年度以降のプランを策定・実施します。



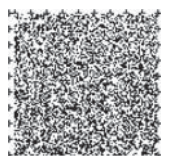
みんなで頑張って、目標を達成しよう。



5. くるめ生きもののプランの体系図



みんなで協力して、目指す社会をつくろう。



5 生きもののプランの推進

1. それぞれの役割

市は、生物多様性の保全と持続可能な利用に関する施策を総合的、計画的に実施します。また、市の関連する戦略や計画へ生物多様性の視点の導入を進めます。

関係主体と連携し、それぞれの役割に積極的に取り組めるよう、環境教育・学習の推進、情報の提供及び各主体の活動への支援やパートナーシップの構築を図ります。

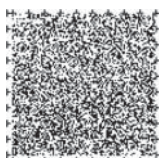
- 市民、事業者、市民団体などの問い合わせの窓口となります。
- 市民、事業者、市民団体などの保全活動に対する支援や各主体間のコーディネートを行います。
- 久留米市特有の自然環境の保全を行う人材の育成を行います。
- 自然環境の調査、情報の発信を行い、環境保全の取り組みを推進します。
- 農業などにおいて、多面的機能が発揮されるような整備を促進します。

市民団体は、自然環境の保全活動を展開、生きものの大切さ、生物多様性に関する正しい知識の普及を図り、地域の生物多様性に関するモニタリングなどを積極的行います。

- 自然環境の保全活動や自然観察会などを企画します。
- モニタリングで得た、生息状況の情報提供を行います。
- 行政・学校などと協力して生物多様性の保全のために行動します。

教育機関は、生物多様性の保全と持続可能な利用に必要な人材の育成に努めます。他の主体と協力して生物多様性の保全と持続可能な利用に貢献します。

- 生態系を保全することの重要性を教育します。
- 自然にふれる機会を多く持ち、自然に対する理解が深い人材を育成します。



自然とふれあい、自然と生きるまち くるめ では、事業者・市民団体・どのような、役割があるかな？

事業者は、環境配慮型事業を展開するとともに環境保全活動への協力などCSR活動を通じて、生物多様性の保全と持続可能な利用に貢献する役割があります。

- 事業活動が生物多様性に及ぼす影響を把握し、事業活動において生物多様性の保全・再生への取り組みを実施します。
- 生物多様性に配慮した、原材料を選択します。
- 工場の敷地内や所有地などでの生物多様性保全活動を実践します。

事業者

市民

研究機関

県

市民は、生物多様性と暮らしの密接な関連を学び、環境に配慮した暮らしを実践します。他の主体と協力して生物多様性の保全と持続可能な利用に貢献します。

- 自然体験を通じて豊かな生物多様性を実感します。
- ペットは最後まで責任を持って飼育します。
- 消費者として、環境や生物多様性に配慮した商品を選択します。
- 募金、寄付を通じて、植樹活動などのボランティア支援を行います。

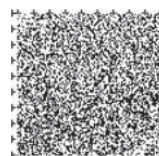
研究機関は、生物多様性の未解明な部分について科学的知見の充実に努めます。

- 生物多様性に関する調査・研究を進めます。
- 生物多様性に関する専門的な助言・指導を行います。
- 市民や市民団体などが行う学習会への支援や保全活動への助言指導を行います。

県は、福岡県生物多様性戦略に沿った総合的な事業を展開します。

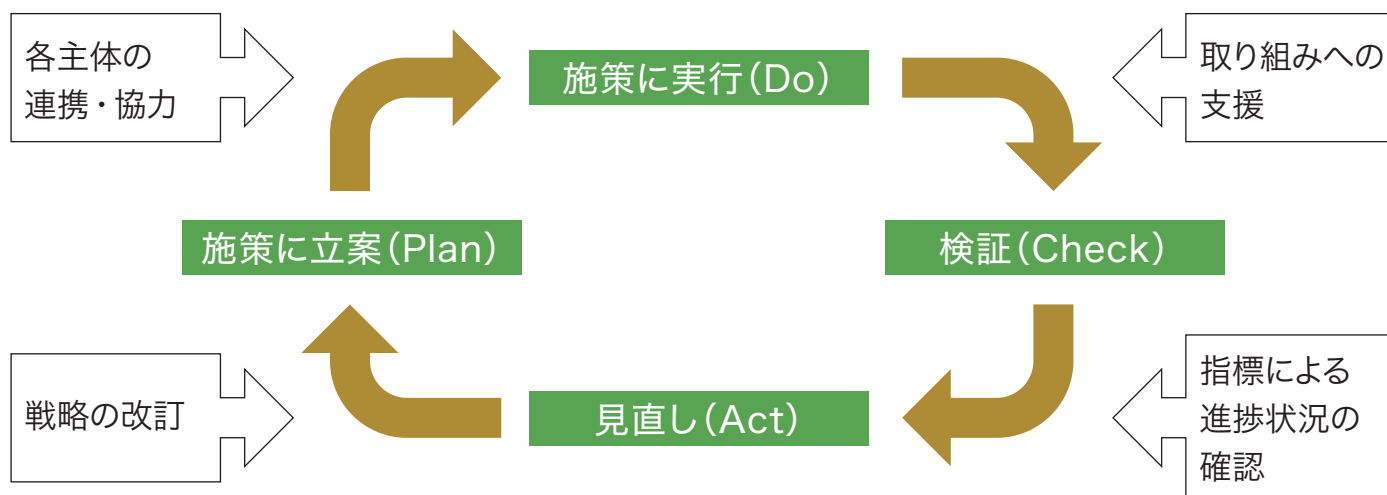
関係主体と連携し、それぞれの役割に積極的に取り組めるよう、情報の提供や各主体の活動への支援を行います。

市などの各主体が、生物多様性の保全に果たす役割を理解し実行しています。



2. 生きもののプランの進行管理

生きもののプランがめざす社会を実現するためには、市民・事業者・行政などすべての主体が環境についての情報を共有し、各主体が自らの責任と役割を理解した上で連携・協力して、取り組んでいくための仕組みをつくる必要があります。



戦略の進行管理におけるPDCAサイクル

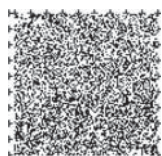
久留米市環境審議会は、環境の保全に関する基本的事項を調査・審議するために設置しています。学識経験者や市民などの代表者で構成され、「久留米市環境基本計画」の進捗管理を行います。

くるめ生きもののプランは、「久留米市環境基本計画」の内容に沿って策定されていることから、同じように久留米市環境審議会で報告を行い、進捗管理や計画の見直しを進めます。

3. 生きもののプランの推進体制



生きもののプランを実効性のあるものとするため、市民、事業者、市民団体、研究機関、教育機関、行政の全ての主体が、それぞれの責任と役割を認識し、協働しながら、生物多様性保全の取り組みを着実に進めていかなければなりません。



参考文献

環境省「生物多様性国家戦略2012-2020」
環境省「生物多様性地域戦略策定の手引き」
環境省「環境省レッドリスト2015」
環境省「平成28年版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」
環境省「こども環境白書2016」・「こども環境白書2015」
気象庁「過去の気象データ検索」<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>
福岡県「福岡県生物多様性戦略」
福岡県「いのちのつながり いのちのにぎわい」
福岡県「福岡県レッドデータブック2011」
福岡県の希少野生生物―植物群落・植物・哺乳類・鳥類―
福岡県「福岡県レッドデータブック2014」
福岡県の希少野生生物―爬虫類/両性類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等―
NPO法人筑後川流域連携倶楽部「筑後川 河童の思い出」
NPO法人大川未来塾「筑紫次郎物語」

写真などの使用について

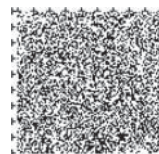
本計画に掲載の写真などの一部は下記の方々から提供いただきました。この場を借りて感謝申し上げます。(敬称略)

環境省 総合環境政策局 環境計画課
環境省 自然環境局 自然環境計画課
農林水産省 農村振興局 農村政策部地域振興課
愛知県環境部自然環境課 生物多様性保全グループ・国際連携・生態系グループ
福岡県 環境部自然環境課
福岡県 保健環境研究所
公益財団法人久留米観光コンベンション国際交流協会
筑後川防災施設 くるめウス
エツ祭実行委員会(ふれアオ塾)
日本野鳥の会 筑後支部
久留米の自然を守る会
津田堅之介生物生態写真研究所
トゥルガック ファクトリー
Tullugaq Factory

表紙・裏表紙について

本計画の表紙・裏表紙には平成28年度久留米市自然観察コンクールの入賞作品を使用しております。この場を借りて感謝申し上げます。(敬称略)

表紙	久留米市立金丸小学校	佐藤 夕海
	久留米市立日吉小学校	深町 宗右
	久留米市立金丸小学校	河戸 桃花
	久留米市立合川小学校	過能 希唯
裏表紙	久留米市立合川小学校	小塩 晏詩





くるめ生きもののプラン ～久留米市生物多様性地域戦略～

2017年3月

編集・発行 久留米市 環境部 環境保全課
〒830-8520 福岡県久留米市城南町15番地3
TEL0942-30-9043
FAX0942-30-9715
e-mail kanhozen@city.kurume.fukuoka.jp